

牛久：学校周辺に見る自然

第45号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2012年12月11日発行

＜水辺公園、秋の動物たち～冬越しに備えて④ハナアブ・ハエの仲間＞
11/8、ひたち野うしく小4年生との水辺公園、秋の観察。今回はハナアブやハエの仲間です。



季節はずれに咲いていた(本来、5～6月ころに咲く)エゴノキの、花みつを吸いにきたホソヒラタアブ。下向きの花でとまりにくいが、ホバリングしながら近づき、やっとつかまって、時間をかけて吸っていた。

エゴノキの実も大部分落ち、ヤマガラがそれを拾って食べていましたが、気をつけて探すと、なんと今になって花を咲かせている木がありました。本来は、5～6月に花を咲かせる木なのですが、ときどきこのように、秋にも花を咲かせているのを見かけることがあります。他にも何本か花をつけているエゴノキを見つけましたが、この木では11月末まで花を咲かせていました。このような現象を「狂い咲き(くるいざき)」とよんだりしますが、べつに木が狂ったわけではなく、葉が虫に食べられたり、嵐で落ちてしまうなどして、あるいは異常気象などが原因になって起こっていることが多いように思います。皆さんも、そういう例を見かけたら、ぜひ教えて下さいね。何が原因になっているのか、いっしょに探ってみましょう。

今回の観察では、ハチの仲間はミツバチがわずかに1頭だけでしたが、ハナアブやハエの仲間は比較的多く見つけられました。ハチが活動できない冬でも、少し日ざしがあるとこれらの仲間は活動し、花粉を運んだりします。寒さ対策して、少し意識して観察してみませんか？ 【理科支援員 宮内】



コナラの幹にとまっていたキンバエの仲間(左)と、コムラサキの葉の上にとまっていたハエ(右)。